

栄吉 令和5年7月度特別作品

父のこと

栄吉

父は悪口を職人であった。自身のことを語ることは殆どなかった。その父が、一時期俳句を学んでいたようだ。父の句が残っているわけではないが、「虚子全集」を大切にしていたことは覚えている。私の句を父に見せることができたなら、どんな顔をするだろう。今風にスルーするか。そんなたわいもないことを考えている。父の日である。

父の日やハイライトとかいこいと

薰風や洗ひ清めし地蔵尊

代田より水こぼれるる峠道

馬鈴薯の花や白寿で畑に立ち

しめやかな流れのありて水芭蕉

白薔薇の花弁散りたる夜の道

一瓶に二匹で目高売られをり

夏燕テニスボールの弾む音

晴天に対岸遠し夏の海

月見草駅の明りの消えにけり

《作品鑑賞》

森口良樹

栄吉さんのお父様への深い敬意と愛情があふれた作品を鑑賞させていただきました。私もお父様も、栄吉さんの句にうなずいて下さっていると思います。

父の日やハイライトとかいこいと

お父様はきつと煙草がお好きだったのでしよう。初めはいこいを吸われていて、体に負担がないように途中でハイライトに変更なさったのではと思慮いたしました。お父様の指の茶色のニコチンが匂っているような気がしました。父の日の現在の自分が、過去の父を呼び覚ますとでもすてきな句でした。

馬鈴薯の花や白寿で畑に立ち

お父様は長寿でいらしたのですね。馬鈴薯の花が職人氣質のお父様をよく表していると思えました。白寿になられても畑に立つ矍鑠とした姿に、敬意と愛情が句にあふれていると感じました。

白薔薇の花弁散りたる夜の道

白薔薇を通してお父様の亡き姿を見つめておられるのではないのでしょうか。花弁がはらはらと散る夜の道のさまに、憂いや悲しみを押し殺す胸の内が句から伝わってきます。

月見草駅の明りの消えにけり

一夜限りと咲く月見草の花は、派手さや艶やかさはなく、むしろ質素な花です。駅の明かりがいつものように、いつもの時間に消えた自然さが、お父様の自然体の生きざまを忍ばせます。心に迫る句でした。